山口大学レポート2024



Yamaguchi University Report

山口大学レポート 2024

Contents

02 学長挨拶

03 明日の山口大学ビジョン2030

06 実績
- Yu-DXプログラム
- 地域レジリエンス研究センター
- 地域連携プラットフォーム
- ダイバーシティ

15 特集
- 人とペットが健康で共生する社会のために ～山口大学細胞デザイン医科学研究所～

19 山大Topics&News

24 財務データ・ガバナンス
- 財務情報の見える化 ～本学の損益計算書を企業会計に近づけると～
- 山口大学の内部統制体制について

31 山口大学基金

33 地域医療の「安心」と「未来」を育てる病院

35 山口大学データ集
- 山口大学の気になる数字
- 入学志願者・入学状況
- 卒業者・修了者の就職状況



Cover Story

「山口大学図書館学生協働の学生たち」

山口大学図書館学生協働とは、図書館サービス向上や、ピアサポート、学生のキャリア形成支援を目的として平成18年より活動している学生団体です。職員と学生が協働することにより、利用者である学生の意見を図書館運営に取り入れています。



しなやかに
未来を切り拓く
山口大学

山口大学レポートに関するご意見等をお寄せください。
yu-info@yamaguchi-u.ac.jp

発行:山口大学総務企画部広報室
発行年月:2024年6月



学長挨拶 Greetings from the President

IoT（Internet of Things）からIoH（Internet of Human）への進化により、ヒトの位置や行動などがインターネットを通じて情報として共有化することで物理空間とサイバー空間が融合した社会であるSocety5.0がまさに到来しつつあります。加えて、DX(Digital Transformation)により人々の働き方自体も変化しつつあり、生成AIの登場は世の中が大きな転換期にあることを実感させます。そのような中で、知を創造し、人材を育成する大学の役割は一層大きくなっています。

1815年に長州藩士・上田鳳陽により創設された山口講堂を起源とする山口大学は、200年以上の歴史を経て、9学部8研究科からなる基幹総合大学へと発展しました。ダイバーシティを活力の源泉と捉え、全ての構成員がそれぞれの個性を発揮し、多様な価値に共感・共鳴してつながる魅力あるダイバーシティキャンパスを形成しつつあります。同時に、総合大学が生み出す多様な知が共奏することにより、変化する社会をしなやかに先導したいと考えています。その目指す姿を明確にするため、「明日の山口大学ビジョン2030」を2023年1月に策定・公表しました。

この「山口大学レポート2024」は、こうした本学の取り組みとこの1年の歩みをまとめた年報です。このレポートが、みなさんに山口大学をより深くご理解いただくための一助となれば幸いです。本学の目指す、「知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学」の実現に向けて、たゆみなく歩みを進めて参ります。引き続き本学に対して暖かい激励、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

山口大学長　谷澤 幸生

明日の山口大学ビジョン2030

～知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学～

山口大学は、2008年に「明日の山口大学ビジョン」を策定、公表しました。さらに創基200年を迎えた2015年には「明日の山口大学ビジョン2015」を策定し、「2025年にはDiversity Campusへ」を中心的目標として着実にそのビジョンを実現しつつあります。

2023年に策定、公表した「明日の山口大学ビジョン2030」では、<知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学>を中心的目標として定めました。この目標の実現に向けて、地域に根ざし、人材を育成し、知を世界に発信します。

知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学



明日の山口大学ビジョン2030

URL:
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_vision/

ビジョンの内容を分かりやすく伝えるために、国際総合科学部公認デザインサークルS!GNALの学生が、ビジョンのイラストを作成しました。
大学ホームページに掲載しています。
ぜひご覧ください。



VISION 2030

教育 EDUCATION

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

1. 地域社会や国際社会で活躍する人材の育成
2. 時代の変化に対応した教育環境の整備
3. 創造的な人材を育成する大学院教育
4. 多様な価値観や経験、能力を持つ優秀な学生の受け入れ
5. 学生支援体制の充実

研究 RESEARCH

様々な社会ニーズの変化にしなやかに対応し、イノベーションをもたらす知を創出し続けます。そのために、総合大学の強みを活かして学際的な知を集め、産学公の連携により、地域活性化に繋がる産業拠点の形成に寄与できる地域イノベーション・エコシステムの構築を図るとともに、世界をリードする研究領域を創造します。

1. 地域イノベーション・エコシステムの構築
2. 世界をリードする研究領域の創造
3. 価値創造の源泉となる学際的基礎研究の推進
4. 優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実
5. 持続可能な社会への貢献

地域 COMMUNITY

しなやかに地域で活躍できる人材を輩出するとともに、企業や教育機関、行政機関と協働し、知の拠点として地域のシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題の解決に寄与し、地域のステークホルダーに頼られ必要とされる、魅力あふれた大学を目指します。

1. 地域社会から期待されるシンクタンク機能の強化
2. 地域共創拠点の整備
3. 地域の持続的発展に寄与する人材育成
4. 地域学の研究拠点としての教育研究・文化振興への貢献
5. 安全・安心な地域社会実現への貢献

ダイバーシティ DIVERSITY

ダイバーシティを活力の源泉とし、すべての学生・教職員が性別、年齢、障害、民族、性的志向や性自認等に関わらず、それぞれの個性と能力を安心して発揮し、繋がり、活躍することにより、多様な知が共奏するダイバーシティキャンパスを創造します。

1. 学生・教職員の多様なニーズへの支援
2. 教職員のダイバーシティの推進
3. 学生協働の推進
4. 国際展開の強化

経営 MANAGEMENT

学長のリーダーシップのもと、戦略的マネジメントと強力なガバナンス体制により、対話と合意を基本としつつ、しなやかな大学経営を行い、すべての学生、教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組みます。また、情報公開により透明性を確保し、地域・社会から信頼される大学を創造します。

1. 信頼される大学づくり
2. 教育研究支援機能の充実及び地域貢献促進のためのDX推進
3. 魅力ある職場環境の構築
4. 健全な財務体制の確立



「明日の山口大学ビジョン2030」マイルストーンについて

山口大学は、<知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学>を目指し、令和12年（2030年）を、そしてさらにその先を見つめて「明日の山口大学ビジョン2030」を策定しました。
この度、「明日の山口大学ビジョン2030」の実現のため、各主要施策において、3年ごと（令和6年（2024年）、令和9年（2027年）、令和12年（2030年））の本学の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーンを設定しました。今後、マイルストーンを設定した3年ごとの状況に沿って、自己点検・評価を行っていきます。



明日の山口大学ビジョン2030
マイルストーンPDF

URL:
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/12/vision2030_milestone.pdf

【マイルストーンの一例】

教育ビジョン

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

重点戦略１：地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

主要施策①：教養教育から専門教育まで一貫した学士課程教育の充実

Society5.0に向けて人間性豊かな人材を育成するために、本学の特色であるSTEAM教育、データサイエンス教育、知的財産教育を充実させます。また、既存の概念や学問領域の枠に捉われることなく、学際的教育やDX教育を展開し、柔軟な学士課程の教育の充実を図ります。

2024	2027	2030
知的財産教育およびSTEAM教育の充実が図られている	データサイエンス教育が深化されている	県内他大学の科目も取り入れた学際的教育科目群が設置されている
令和6年（2024年）	令和9年（2027年）	令和12年（2030年）

の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーン

実 績

Achievement



地域の未来を拓く、しなやかなDX人材の育成

山口大学ではSociety5.0に向け、データサイエンス教育や知的財産教育にいち早く取り組んできました。この取り組みをさらに進め、DX(デジタルトランスフォーメーション)人材の育成に力を入れています。

パソコン、スマートフォン、AI(人工知能)やインターネットに代表されるデジタル技術は急速に私たちの社会に浸透してきました。また、これらのデジタル技術を通して生み出される大量のデータを蓄積し活用する基盤や手法も飛躍的に進化しています。一方、私たちを取り巻く社会は複雑さを増しており、従来のやり方をそのまま踏襲しても有効な課題解決には結びつかないことが多く、また将来を見通すことも非常に困難な時代となっています。

DX人材育成推進室の設置

山口大学では、こうした現代社会の動きを踏まえ、令和4年度に「DX人材育成推進室」を設置し、社会で必要とされるDX人材の育成に取り組んできました。DX人材育成推進室では、「地域の未来を担うDX人材育成プログラム」(「Yu-DXプログラム」)を整備し、山口大学の全学部の学生を対象としたDX教育を実施するとともに、山口県立大学、山口学芸大学と連携し、「ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材」の育成を推進しています。

山口大学が育成するDX人材像

私たちにとって身近なものとなったデータとデジタル技術を活用して、新たな価値を創出するための方策を構想し、その実装、変革を成し遂げるイノベーション人材の育成に取り組んでいます。

『時代の変化、社会の多様化を見据えるしなやかさを持ち、 しなやかに

新たな価値を創出するための課題を見出し、 発見し

解決に向けてデータとデジタル技術を適切に活用した方策を構想し、 はぐぐみ

実装に導くことができるイノベーション人材』 かたちにする

山口大学のDX人材育成プログラム～Yu-DXプログラム

山口大学ではDX人材育成推進室が中心となり、令和5年度から、文系・理系の枠を超えた正課外プログラムとして、「地域の未来を担うDX人材育成プログラム」(「Yu-DXプログラム」)を開始しました。「Yu-DXプログラム」は、学生が在学中にDXに関連する幅広い知識・教養を習得しながら、それらを活かした実践まで、DXについて体系的に学び、体験することのできるプログラムです。DXの意義や必要性を理解した上で、より良い社会、豊かな社会に向けて大きな絵を描き、その実現に向けてチャレンジする人材の輩出を目指しています。

「Yu-DXプログラム」のカリキュラム概要



PBL：Project Based Learning

授業の様子

「Yu-DXプログラム」の中では「DX概論」、「DXPBL」などの授業を開講しています。

「DX概論」



ビジネスの第一線でDX企画、戦略立案に携わってきた実務家教員が、DXの概念や重要性を解説するとともに、企業がどのようなDXに取り組み、競争力を高めようとしているのかを、学生が自分事として理解し、習得することのできる授業です。山口県内のDX先進企業の事例紹介もあります。

「DXPBL」



地域課題を理解し、豊富な地域人脈を有する教員が、デジタル技術や知的財産に関する知識などを活かして、地域課題の解決方法を考え、実践するPBLを実施します。山口県内の企業や自治体などと連携し、学生が課題解決方法を主体的に模索し、提言する授業です。

「地域活性化人材育成事業(SPARC)」

～ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成～

令和４年度から令和９年度まで、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学は、文部科学省の「地域活性化人材育成事業 (SPARC)」に採択され、「ひとや地域 (まち・文化・教育) の well-being に貢献する文系 DX 人材」の育成事業を展開しています。山口の国公私立の３大学による全国で初めての取り組みとなります。

お互いの強みを活かしてそれぞれの大学が連携し、地域で活躍できる人材を育成する取り組みで、山口大学からは総合大学として、データサイエンス教育、知的財産教育等の理系分野の授業科目をはじめ、DX概論、人工知能概論などの授業を提供します。

この事業を通して、山口の地からよりよい未来のために、以下のことを目指しています。

●DXで地域の課題を適切にとらえて実践できる人材を育成
●山口県産業の装置型から知識集約型への産業転換に貢献

DX：デジタルトランスフォーメーション
DXとは、データとデジタル技術を手段として活用することにより、ビジネスや私たちの社会、生活に変革をもたらし、新たな価値を創出する取り組みです。近年、こうした取り組みを自ら推進するDX人材が企業や自治体などで広く求められています。

持続可能な社会に「総合知」で挑む
地域レジリエンス研究センター

災害・生態系の劣化・少子高齢化...急激な変化から「回復する力」を高めるために求められるキーワードは「レジリエンス」です。

世界各地で発生する自然災害と異常気象。令和6年元日に能登半島を襲った地震は、多くの人に災害の恐ろしさを再認識させました。気候変動の影響により、生態系の劣化も進んでいます。私たちの社会はさまざまな「急激な変化」に直面しており、その負の影響を最小限にとどめ、素早く回復する力、「レジリエンス」が重要視されています。山口大学地域レジリエンス研究センターは、異なる分野をレジリエンスという理念でつなぎ、持続可能な社会の実現に「総合知」で挑む、特色ある研究機関です。

社会システムにしなやかな強さを

レジリエンスとは、元々、「外部から加えられた力を跳ね返す力」を表す物理学用語で、広義には「回復力」や「しなやかな強さ」を指します。赤松良久センター長は「急激な変化は必ずあり、どう対応するかは個人や社会に共通する問題で、しなやかな強さが必要だと思っています。山口大学の『総合知』を生かした学際的な研究を進めていきたいと考えています」と力を込めます。

トップダウン型産学公連携研究拠点

山口大学地域レジリエンス研究センターは、山口大学の研究拠点群形成プロジェクトに採択されていた「環境DNA研究センター」と「地域防災・減災センター」を統合し、学長が認定するトップダウン型の産学公連携研究拠点として令和5年3月に新たに発足しました。右図に示すように「環境DNA」と「防災・減災」、AIやIoTを活用して安心・安全なまちづくりを図る「共創イノベーション」の3つの研究グループから構成された、文系・理系の枠を超えて全学から研究者が参画し、行政や企業、市民とも連携して研究を進めています。

環境DNA～1リットルの水で生物多様性が見える

環境DNA分析は、水や土壌、空気中に存在する生物由来のDNAを分析する新しい生物調査手法で、近年注目を集めています。海や川の水を1リットルすくい取り、含まれるDNAを分析するだけで、生物の種類や密度、希少種や外来種の有無など、生物多様性に関する情報を網羅的に把握することができる革新的な技術です。気候変動による水温の上昇などの影響も予測でき、生物多様性が失われる危険性の高い場所や優先的に保護する区域を特定することにも役立つと考えられます。環境DNAグループは、検出の精度を高める独自の方法を開発し、下水に含まれる新型コロナウイルスを調べることで感染者の増減や分布などの流行状況をモニタリングした実績もあります。

防災・減災～文理融合と産学公連携で

防災・減災グループは、文理融合、産学公連携により平時と災害時をつなぎながら、レジリエンスを備えた社会システムの構築を目指しています。具体的には、歴史学や考古学などが融合した「時間防災学」という新しい研究領域を創成し、特定の地域において1,000年という長いスケールで過去の被災履歴を把握し、災害発生のサイクルを明らかにする研究を進めています。このほか、災害時に高齢者らの早めの避難を支援するため、日常生活で利用しているタクシーなどのデマンド交通を緊急時の避難に活用する仕組みを検討中です。

地元への貢献を大切に

高齢化率全国3位の山口県。少子高齢化も社会が直面する急激な変化の一つで、さまざまな影響が懸念されます。豪雨災害への対応を例にとると、山口県内は

中小河川が多い一方、地元建設業の従事者が減少・高齢化しており、このままでは迅速な復旧が難しいという課題があります。県内産業に与える影響も深刻です。特に漁業をめぐっては、漁業就業者数と漁業産出額がともに減り続け、農業と比べても衰退が著しいという実態があります。本センターは、こうした地元・山口県が抱える課題解決を重視し、力を注いでいます。

レジリエンスで異分野をつなぐ

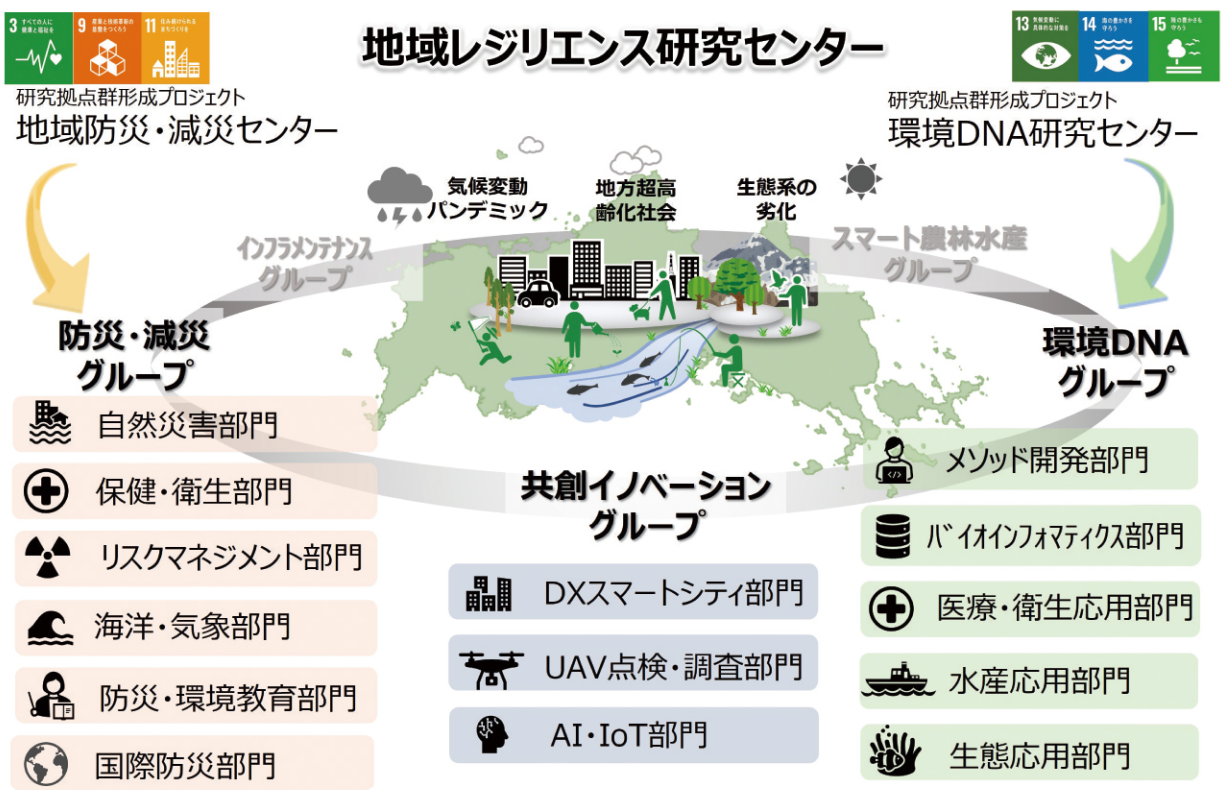
従来の防災対策では、ダムや堤防の建設により防災機能の向上が見られる一方、生態系など環境に与える影響については客観的なデータを得るのが難しい状況でした。環境DNA分析のような技術の発展により、対極にあるとも言える防災と環境保全とのバランスを「レジリエンス」の観点から探ることが可能になりました。赤松センター長は「防災と環境は対極にあるものではなく、一緒に考えていく社会を目指したい」と話します。

多角展開でシナジー効果を

今後、本センターは研究、教育の拠点化を図ることはもとより、人材育成や企業支援を通じた地域振興、山口県での取り組み事例をモデルとした海外展開、外郭団体を活用したビジネス化にも力を入れていきたいと考えています。将来的な研究体制として、学外機関との連携も視野に、一次産業が抱える課題に対応する「スマート農林水産グループ」や、老朽化が進み更新時期を迎える社会基盤の対策を考える「インフラメンテナンスグループ」を加えることを構想しています。こうした取り組みを多角的に進めることでシナジー効果を生み、しなやかで強い社会システムの構築に向けた研究を加速させていきます。



山口大学地域レジリエンス研究センター長
赤松 良久

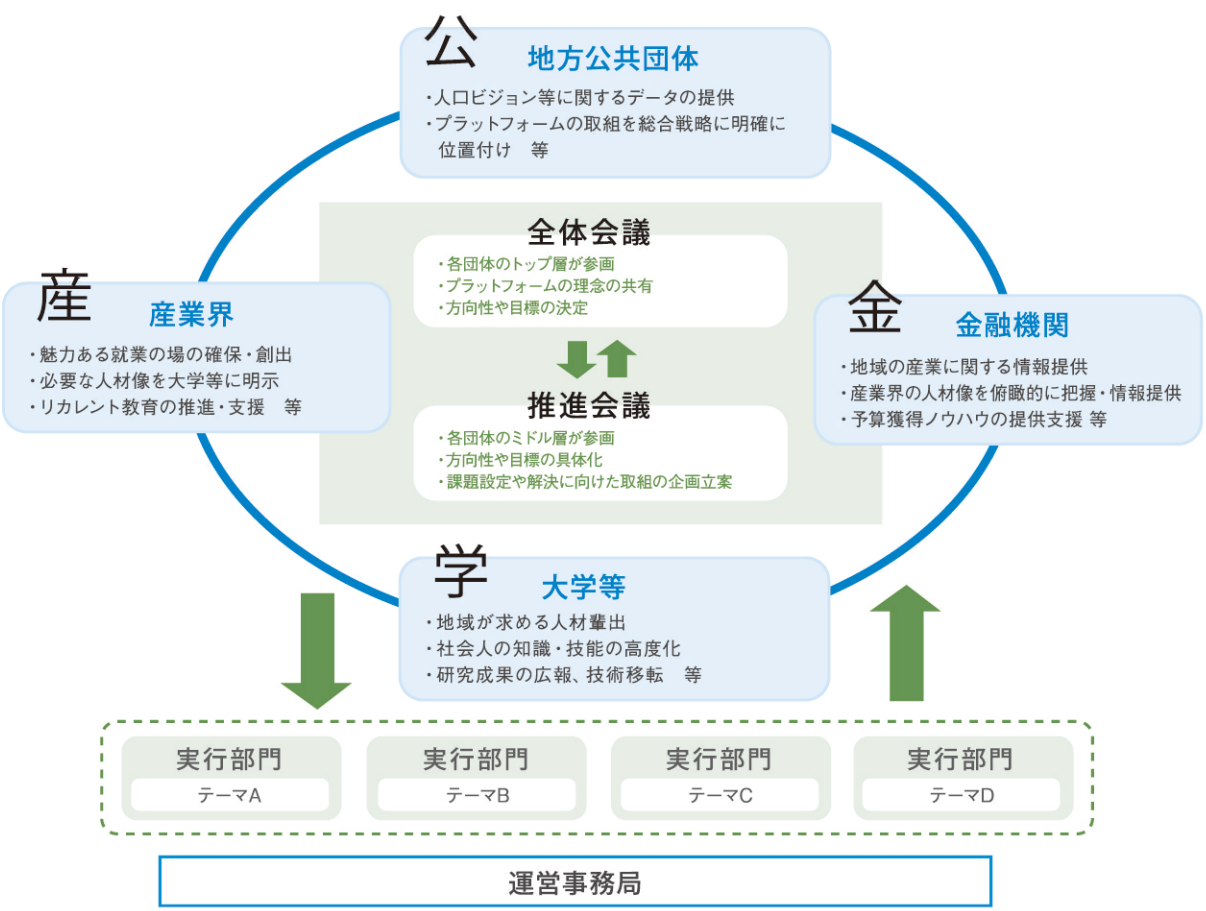


産学公金の連携で地域課題の解決に取り組む「地域連携プラットフォーム」

山口大学は地域の「知」の拠点として、地域経済・社会を担う人材育成や教育機会の確保を通じて地域社会の発展に寄与してきました。近年、山口県の人口減少を始めとした社会変化や今後の持続的な発展を考えると、大学みずからが地域社会の課題解決に取り組むなどこれまで以上に積極的な役割を果たすことが期待されています。

「地域連携プラットフォーム」の構築により、地方公共団体、地域に根差す産業界、金融機関等の様々な関係機関と地域の高等教育機関が一体となった恒常的で平等な議論の場を形成し、エビデンスに基づく現状・課題を把握した上で将来の目標を共有し、連携協力の抜本的な強化を図ります。その上で地域の高等教育のグランドデザインの策定、若者や社会人の高等教育機会の確保や地域への人材の定着など、地域社会の維持発展を目指します。下図は、文部科学省が令和2年10月に策定した「地域連携プラットフォーム構築に関するガンドライン」や国の動向等をもとに作成した地域連携プラットフォームの概念図です。

【地域連携プラットフォーム概念図】



やまぐち地域共創プラットフォーム

令和４年11月に山口市（公）、山口商工会議所（産）、山口銀行山口支店（金）、山口県立大学・山口学芸大学・山口大学（学）で構成する「やまぐち地域共創プラットフォーム」を立ち上げ、「Well-beingあふれる山口市」を目指し、①人材育成・全員活躍、②定住実現・雇用創出、③にぎわい・交流創出の３点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。

具体的には、「部活動の地域移行」及び「にぎわい創出」を推進するためのワーキングを設置し議論を進めています。特に、部活動の地域移行については、地域指導者の人材確保などの協力が求められています。にぎわい創出については、各団体で実施しているイベントの情報共有を行い、学生の提案や協力を積極的に取り入れながら既存の取り組みを発展させる予定です。

【やまぐち地域共創プラットフォームの取組事項】

<重点取組事項①>
人材育成・全員活躍

<重点取組事項②>
定住実現・雇用創出

<重点取組事項③>
にぎわい・交流創出

部活動地域移行ワーキング

山口市が実施する「市立中学校部活動地域移行」が円滑に進むよう、少子化の中でも、将来にわたって生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組む。

にぎわい創出ワーキング

大学生をはじめとした若者の参画による、山口市の歴史、文化、地域資源等を生かした地域の魅力向上に取り組み、市内に更なるにぎわいや交流を創出し、地域経済の活性化を図る。

うべ・未来共創プラットフォーム

宇部市が掲げる「共存同栄・協同一致」の理念の下、令和４年11月に宇部市（公）、宇部商工会議所（産）、山口銀行宇部支店（金）、宇部フロンティア大学・宇部工業高等専門学校・山口大学（学）で構成する「うべ・未来共創プラットフォーム」を立ち上げ、「ひとが輝き交流ひろがるわたしたちの宇部」の実現を目指し、①中心市街地の活性化、②市民の健康増進、③地元企業の魅力発信・若者定着の３点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。

その重点取組事項をもとに、「認知症予防・認知症との共生」及び「中心市街地の活性化」を推進するワーキングを設置しました。認知症予防・認知症の共生については、認知症に関する正しい知識を幅広い層へ知ってもらう為、市民に向けた啓発活動や認知症サポーター養成講座の充実等の検討を始めています。中心市街地活性化については、市内大学生に対してアンケートを実施し、中心市街地への訪問頻度や期待、課題について現状分析を行いました。現在、具体的な取り組みについて議論を進めています。

【うべ・未来共創プラットフォームの取組事項】

<重点取組事項①>
中心市街地活性化

<重点取組事項②>
市民の健康増進

<重点取組事項③>
地元企業の魅力発信・若者定着

認知症予防・認知症との共生ワーキング

国の方針や認知症に関する基本法を踏まえ、認知症との共生に向けた、正しい知識の普及・啓発や認知症予防に関する取組を行う。

中心市街地活性化ワーキング

あらゆる世代が出かけたくなる場の創出を目指し、産学公金で連携した、中心市街地の活性化に向けた新たな取組を行う。

ダイバーシティ
新たな可能性を学生とともに

ダイバーシティとは、「多様性」を意味します。変化の激しい時代に、組織や地域が力強く進んでいくためには、多様性から生まれる活力が必要です。

平成29年度に、「男女共同参画推進室」と「女性研究者支援室」を発展統合する形で「ダイバーシティ推進室」を設置しました。「ダイバーシティ推進室」のもと、ダイバーシティ意識の醸成や多様性を尊重するための理解促進とともに、下図のような様々な教職員のワークライフバランス支援制度等を整えてきました。



1 ニューズレターの発行　2 メルマガ配信　3 シンポジウム・セミナーの実施　4 あれこれカフェタイムの開催
5 介護と仕事の両立支援　6 就業時間内の会議終了の徹底　7 病児保育施設等利用助成
8 臨床心理士によるカウンセリング　9 学童保育「ヤマミィ学級」・一時保育の実施
10 SOGI ガイドライン・SOGI 対応事例集の発行　11 女性・若手・外国人研究者比率の向上
12 学生団体 ilma との協働　13 研究者の裾野拡大

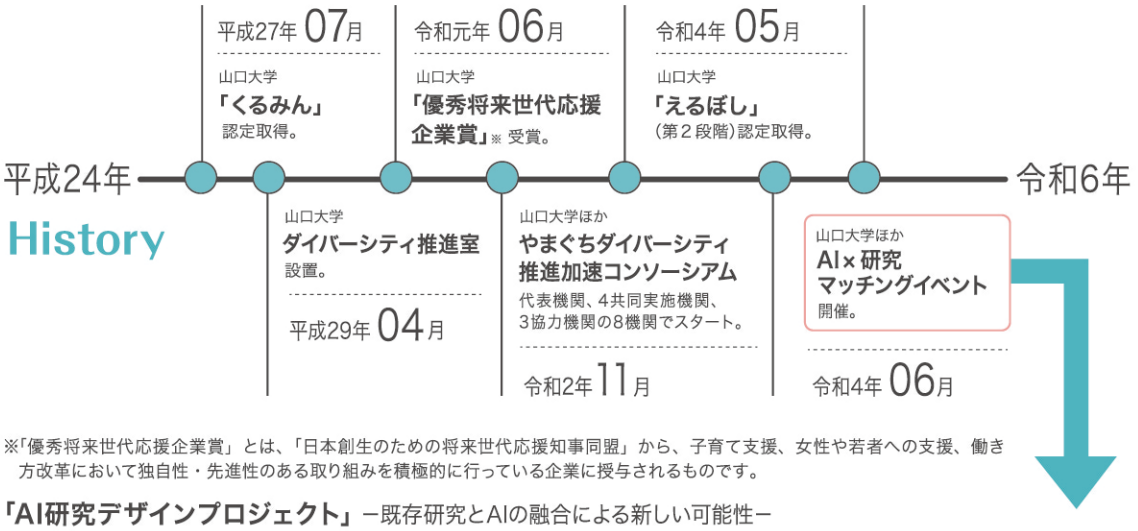
研究におけるダイバーシティの促進

文部科学省や山口県などでは、大学の質の向上や社会課題解決するための優れた取り組みを実践する大学を選定し、重点支援をするための補助事業を実施しています。ダイバーシティ推進室では、これまでに文部科学省「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」、山口県「男性の家事参画フォーラム企画・運営事業」などに採択され、事業を推進してきました。

現在は、令和7年度を最終年度とする6カ年の事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、3つの柱（女性研究者の研究力向上、女性研究者の増加、女性上位職登用）を掲げ、県内の高等教育機関、企業、地方自治体と「やまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアム」を立ち上げて、地域全体の女性研究者の活躍促進と成果の可視化に取り組んでいます。

事業開始から3年が経過する中で、国立大学初となる「えるぼし（2つ星）」認定の取得や、研究者裾野拡大のためのオンラインイベントの開催などにつながっています。

山口大学及びやまぐちダイバーシティ推進加速コンソーシアムによる主な取組



※「優秀将来世代応援企業賞」とは、「日本創生のための将来世代応援知事同盟」から、子育て支援、女性や若者への支援、働き方改革において独自性・先進性のある取り組みを積極的に行っている企業に授与されるものです。

「AI研究デザインプロジェクト」－既存研究とAIの融合による新しい可能性－

このプロジェクトは、様々な分野で活用の進むAI技術に着目して、既存研究にAI技術を活用することで、研究効率化や活性化、さらに、新たな研究展開を図るものです。具体的には、学内にAIサーバーを設置し環境整備を行うとともに、研究者とAI研究者・技術者のマッチングを行います。



学生との連携、協働

キャンパスに集う学生も多様です。その多様な価値観に寄り添い、尊重し、それぞれの個性と能力を存分に発揮できるキャンパスを目指しています。そのために、学生の視点からの情報や意見を収集し、取り組み内容に反映させることはもちろん、学生にむけての情報発信にも力を入れています。

いくつかの学生協働を紹介すると、「ilma」(SOGI/LGBTQに関する理解促進活動をしている学生団体)、「kieli」(男女共同参画に関する情報を発信し、地域の男女共同参画意識を向上させることを目的とした学生団体)、「lanka」(山口大学のダイバーシティ推進に関する活動をしている学生団体)などが活躍しています。

また、山口大学図書館では、図書館サービスの向上や、ピアサポートを行う団体が、平成18年より活動しています。図書館の学生団体は、図書館をより良くすることを目的として、図書館情報の発信、企画立案や展示などを行っています。

このほかにも広報室や学生特別支援室など様々な部署で学生協働が進んでいます。このような学生協働を大切にし、ダイバーシティキャンパスの充実に向けて邁進します。

ダイバーシティキャンパスから多様性豊かな地域へ

地域における「知の拠点」として、大学は大きな役割を担っています。キャンパス内の多様性も高めつつ、地域との関わりや連携を強化し、地域全体の元気の創出を目指します。

人とペットが健康で共生する社会のために

細胞をデザインする。この言葉からどんな未来を想像しますか？山口大学細胞デザイン医科学研究所は、細胞デザインやゲノム編集といった最先端の医療技術に特化した日本初の研究所です。目的に応じて細胞や遺伝子、微生物などを人工的に改変することで、がんなど難治性疾患の革新的な治療法や薬を創出し、人と動物の健康を支える国際研究開発拠点を目指しています。

人と動物の医療がともに進展する好循環を

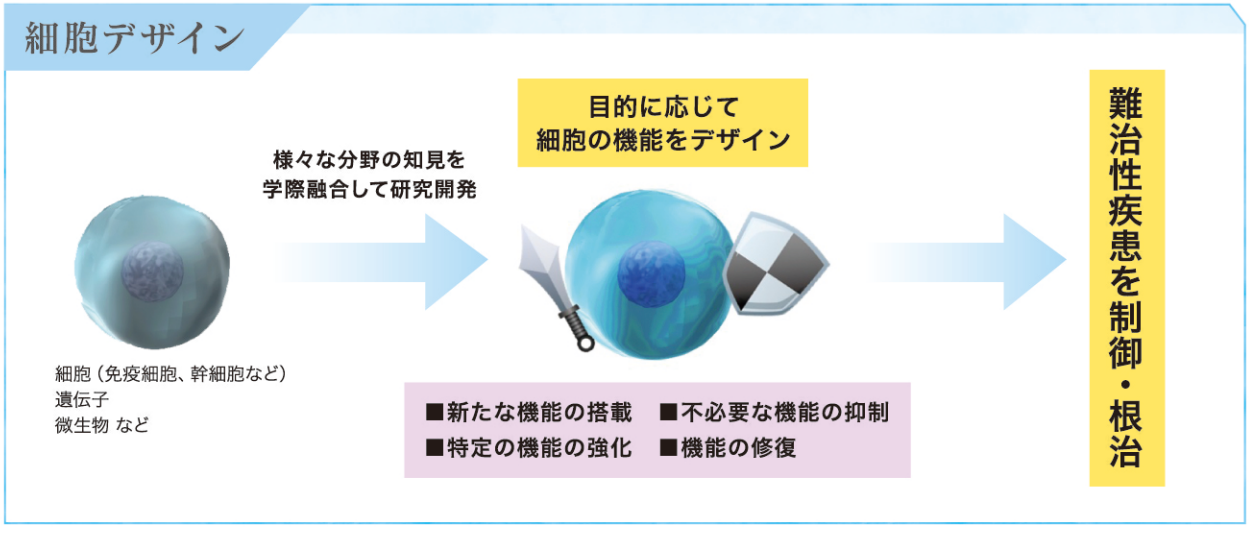
山口大学細胞デザイン医科学研究所は、山口大学で長年がん免疫療法やゲノム編集治療といった世界最先端の研究・開発を積み重ねてきた組織を母体とし、中型動物（特にイヌ）の先進医療で実績のある共同獣医学部の研究者が参画し、大学の附置研究所として令和5年10月に新設されました。

山口大学における附置研究所の新設は23年ぶり2施設目で、人の先端医療を動物に応用し、動物で得られたデータを人医療にフィードバックすることで、双方の研究が進展するイノベーション・エコシステムの構築を目指しています。玉田耕治所長（医学系研究科免疫学講座教授）は「“研究のための研究”ではなく、その先に人や動物の健康、福祉に貢献するというミッションを常に明確に持ち、達成のために世界最先端の研究を進めたい」と話します。

免疫療法を取く現状と未来

免疫療法は、従来の「手術・抗がん剤・放射線」とは異なる第四の治療法として研究が進展してきました。その一つ、平成30年にノーベル生理学・医学賞の対象となった免疫チェックポイント阻害薬は、免疫療法ががんに効くことを明確に証明した薬で、日本国内では平成26年に承認されました。

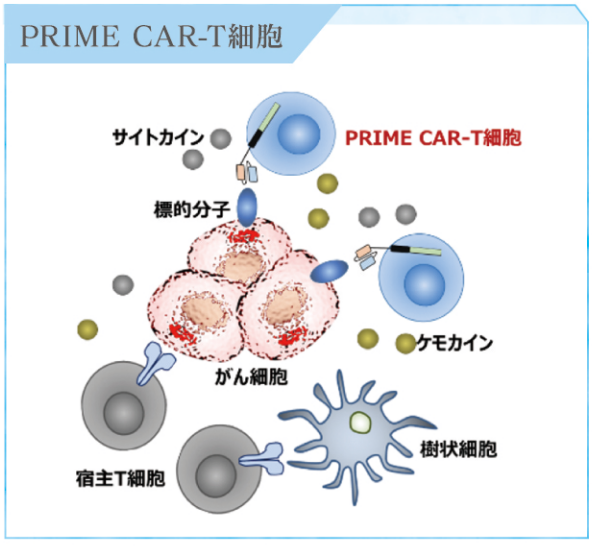
また、がんに対して強力な攻撃能力を持った免疫細胞を人工的に作り、患者に投与する「CAR-T細胞療法」は



白血病などの血液がんに効果が認められ、世界中で承認されています。CAR-T細胞療法を含む免疫療法は有望な治療法として全世界で注目され、研究が進められています。

「PRIME CAR-T細胞」で従来の概念を変革する

CAR-T細胞療法は血液がんに有効性が認められる一方、がん患者の約93%を占める固形がん（胃がん、肺がんなど）には効果が発揮できないという大きな課題がありました。玉田所長は10年以上にわたり、この課題を解決する次世代型CAR-T細胞療法の研究を続け、「PRIME CAR-T細胞」を開発しました。PRIME CAR-T細胞は、がん細胞を攻撃できるだけでなく、患者自身が持つ免疫機能を活性化して一緒にがんを攻撃する働きを追加したもので、固形がんにも効果を発揮できると期待されている画期的な技術です。現在臨床試験が進められており、大学発のスタートアップ企業が主体となって実用化に向けて動いています。



あらゆる壁をチームで越えその先へ

本研究所には医学・獣医学にまたがる4部門があり、細胞療法やゲノム編集治療、膨大なゲノム情報などを解析するバイオインフォマティクスを得意とする複数の研究室が革新的な研究を展開しています。それぞれの実績を集大成し、研究所という一つのチームにまとめ上げることで、治療法の確立や創薬に至るさまざまなハードルを乗り越えようとしています。

例えばCAR-T細胞療法では、現在承認されている治療でも患者の血液から免疫細胞を取り出し、遺伝子改変したCAR-T細胞を投与するまでに5〜6週間を要し、その間に病気が進行してしまいます。投与までの期間を短くするには、あらかじめ用意したCAR-T細胞を患者に投与する方法がありますが、拒絶反応が課題になります。この課題を克服するには、ゲノム編集技術が有効と考えられます。また、薬の副作用などの原因を究明するには、AIやバイオインフォマティクスによる解析が有効となります。

山口から世界へ次世代の希望に

山口大学はこれまで、細胞のスペシャリスト「臨床培養士」の育成コースを全国で初めて設置するなど、人材育成にも力を注いできました。本研究所の新設により、国内外から優秀な若手研究者が集い、さらなる成果につながることも期待されます。

玉田所長は「山口から世界最先端の治療技術を開発し、患者さんに届けられると示すことは非常に重要で、次世代の希望になると考えています。創薬は終わりなき戦いで、私一人の世代だけで解決することはまずありません。研究や開発を継承していくことによって初めてより良い薬ができるのです。若い人が次の研究の原動力となっていくことが重要です」と、若手研究者の参画にも期待しています。

附置研究所：大学の学部等から独立し、特定の研究領域に特化して、あるいは新たな研究領域の開拓を目指して、集中的に研究を深めたり、一定の広がりのある研究領域を対象に継続性をもって長期的に研究を進める機関です。



山口大学細胞デザイン医科学研究所長 玉田耕治

先進細胞治療研究部門



卓越した細胞デザインの叡智を集結し、多種多様な革新的細胞治療シーズを創出する 01

玉田 耕治 医学系研究科（免疫学講座）・教授

先進細胞治療研究部門では、細胞デザイン医科学研究所の強みであり、黎明期から長年培ってきた「細胞をデザインする」画期的技術を駆使し、現在の治療法では解決できない難治性疾患克服に向けて、大学発スタートアップ企業や製薬企業、製造業、金融機関、関連病院、自治体等と有機的に連携して革新的な細胞治療法の臨床開発を推進しています。難治性固形がんに顕著な奏効を示すPRIME CAR-T細胞療法や間葉系幹細胞による再生療法、他家積層線維芽細胞シートによる難治性皮膚潰瘍治療など、国内トップレベルの多様な細胞種の医療製剤の臨床研究シーズを誇ります。

また、本研究部門では、細胞の自動培養装置や、細胞評価方法や培地、保存・運搬法などの細胞製造関連技術など、製剤化には欠かせない技術開発も進めることで、患者さんのもとへ届く「細胞をつくる」取り組みも実践しています。加えて、臨床培養士や医科学者などの高度医療専門技術者である「細胞スペシャリストを育てる」取り組みを通じて、次世代の医療製剤のイノベーション創出に貢献します。

先進ゲノム編集治療研究部門



遺伝病の克服を目指して、国産ゲノム編集技術を駆使した医科学研究を展開 02

宮本 達雄 医学系研究科（分子細胞生理学講座）・教授

ヒト遺伝病は7,000種以上存在しており、罹患している人の総数は全世界で数億人以上と推定されています。これまでヒト遺伝病に対する治療の多くは、対症療法に留まり、不治の病であるとされてきました。30億塩基対からなる長大なヒト遺伝情報の特定の場所を自在に改変できる画期的なゲノム編集技術の登場によって、ヒト遺伝病は克服できる疾患に変化していくことが期待されています。一方で、実際にゲノム編集技術を医療分野で安全に利用するためには、乗り越えるべき技術的および特許的な障壁が立ちはだかっているのが現状です。

先進ゲノム編集治療研究部門では、国産ゲノム編集技術の開発実績のある基礎医学の研究者やゲノム編集治療の展開を目指す臨床医学の研究者が集結して、ヒトおよび伴侶動物の「遺伝病の克服」という難題に挑んでいます。また、広島大学ゲノム編集イノベーションセンターなど国内における他の研究機関とも連携して、日本発のゲノム編集治療の研究・教育拠点としての発展を目指しています。

医・獣トランスレーショナル臨床研究部門



犬や猫の動物医療と医療のトランスレーションの循環を目指して

03

水野 拓也　共同獣医学部（臨床獣医学講座）・教授

犬や猫の伴侶動物は我々にもっとも身近な存在であり、共に生活することで我々の生活を豊かにしてくれています。犬や猫にも、遺伝性疾患からがんに至るまで、ヒトの疾患に類似した難治性疾患が多く存在しています。また、マウスなどの実験動物と異なり、犬や猫ではそれらの疾患が自然に発生することから、ヒトの疾患の自然発症モデルとしても認知されつつあります。さらに近年は、犬や猫を家族同様の伴侶として考える人が増えたため、獣医師にも高度医療レベルの治療が求められるようになっています。

医・獣トランスレーショナル臨床研究部門では、最先端の医療技術を伴侶動物医療に適用できるような研究を進めることで難治性疾患をもった動物を救う手段を広げる「医→獣」トランスレーショナル研究を実践します。同時に、倫理的な問題やさまざまな障壁のために医療において実施が難しいような治療法を、伴侶動物にいち早く適用することで、そこから得られた知見を医療に還元する「獣→医」トランスレーショナル研究も推し進め、持続可能な医・獣トランスレーションの循環を作ることを目指しています。

システム医学情報研究部門



データ科学を活用した知識統合：細胞治療研究の新たな可能性を探る

04

浅井 義之　医学系研究科（システムバイオインフォマティクス講座）・教授

システム医学情報研究部門では、「生命機能とは生体のダイナミクスである」という考えのもと、システムバイオロジーの観点から、さらにバイオインフォマティクス、人工知能技術の専門知識を融合させ、他の研究部門が生成する細胞デザインに関する実験データの解析と情報の統合を主導し、革新的な細胞治療や遺伝子治療、さらには伴侶動物を用いた治療法の開発を全面的にサポートします。

また、システムバイオロジー、バイオインフォマティクス、人工知能技術という近年発展のめざましい3つの重要なデータ科学技術を統合的に扱い、医科学分野における新たな解析方法の開発と知見の創出に取り組んでいます。それと同時に、データ科学技術に強い医師の輩出を目指して、データサイエンス教育にも注力しています。

本研究部門は、細胞デザイン医科学研究所における部門横断的コラボレーションのハブとして機能し、新たに創出される知見と技術を実用化に繋げることで、疾患治療の新しい地平を開拓することを目指しています。

山口大学 Topics & News

～さまざまな特徴ある取り組み～

本学は、9学部8研究科を擁する基幹総合大学として、知を創造して世界に発信するとともに、地域の知の拠点として、地方創生に貢献しています。教育・研究・地域貢献・ダイバーシティ等、あらゆる分野の活動に、学生・教職員が一丸となって日々取り組んでいます。



01 令和4年度地域活性化人材育成事業～SPARC～「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成」キックオフシンポジウムを開催しました

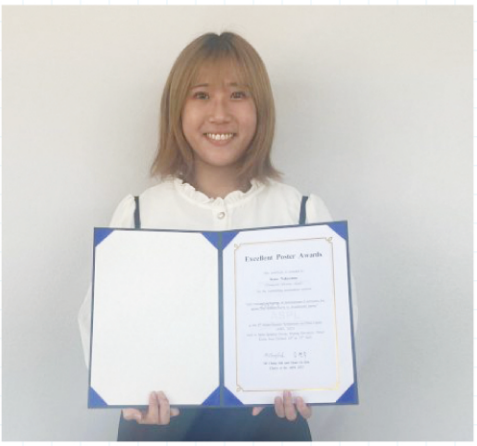


令和5年5月16日（火）に「ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成」キックオフシンポジウムを開催しました。全国の大学関係者、地域の行政機関及び企業等の幅広い層から約250名（うち、オンラインは130名）の参加がありました。

始めに、文部科学省高等教育局大学教育・入試課 課長補佐 山田研市氏からSPARC事業全体の説明が行われた後、山口大学からSPARC事業の概要及び取組状況を報告しました。基調講演では、株式会社国際社会経済研究所 研究主幹の西岡満代氏とQuantum Analytics合同会社CEO、データサイエンティストの古屋俊和氏から、本事業に対する期待について講演いただきました。最後に、パネルディスカッションを実施し、文系DX人材の必要性や社会から期待されること、在学中に身につけておく資質・能力について意見を交換しました。

本シンポジウムを通じて、本事業で育成する「文系DX人材」の役割や必要性に対する理解が深まるとともに、3大学で運営する「SPARC教育プログラム」の教育内容及び教育方法に対する示唆をいただき、大変有意義なものとなりました。

02 韓国ソウルで開催された第9回アジア・オセアニア植物脂質シンポジウムでポスター賞を受賞しました



令和5年10月10日（火）～14日（土）に韓国ソウルの西江大学で開催された第９回アジア・オセアニア植物脂質シンポジウムで農学部の中山香乃さん（生物機能科学科農産製造学研究室）がポスター賞を受賞しました。

ポスター題目は「Ca^{2+}-induced activation of lipoxygenase 2 accounts for green leaf volatile-burst in Arabidopsis leaves（Ca^{2+}によるリポキシゲナーゼ２の活性化がシロイヌナズナ葉のみどりの香りバーストを駆動する）」でした。植物は傷つけられると直ちにみどりの香りを放散します。その仕組は長い間不明でしたがこの研究で酵素がカルシウムによって活性化されることがその基盤になっていることを明らかにし、この度の受賞に至りました。

国際会議で学部生が発表すること自体素晴らしいことですが多くの国から集まった優れたポスターの中からポスター賞に選ばれるのは特筆できる成果です。受賞に関して中山さんは「諸先輩方の研究成果の裏付けがあって初めて本研究の進展が可能となったと思います。これからもこの賞に恥じないよう一層研鑽し、研究を推進していきます」と述べています。

03 山口大学図書館学生協働 留学生交流会「図書館でおしゃべりしましょう！」を開催しました



令和5年10月18日（水）に、図書館学生協働留学生交流会「図書館でおしゃべりしましょう！」を開催しました。この交流会は、ダイバーシティキャンパスとして誰もが使いやすい大学図書館にするため、留学生に意見を聞かせてもらう機会として実施したもので、9月に来日した留学生を中心とした20名の参加がありました。

総合図書館1階アカデミックフォレストを会場として、折り紙、ブックカバー作り、トークテーマを設けたおしゃべりを実施し、終始打ち解けた雰囲気の中、図書館や学生生活について活発に意見交換が行われました。参加した留学生からは、「来日して初めて日本人の学生と仲良くなることができました。今後も参加したいです」「私たちの意見を熱心に聞いてくれて心が温まりました。とても良い午後を過ごすことができました」との感想がありました。

図書館では、今後も学生協働によるピアサポートを強化し、充実したサービスに取り組んでいきます。

＊学生協働とは、大学図書館サービスの向上や、ピアサポート、学生のキャリア形成支援を目的として平成18年より活動している学生団体です。

04 山口大学グリーン社会推進研究会 第3回シンポジウムを開催しました



令和5年11月21日(火)に、山口大学グリーン社会推進研究会第3回シンポジウムを開催し、民間企業や自治体等約70名の方々の参加がありました。

第3回シンポジウムは山口市のホテルニュータナカを会場として開催し、企業の取り組み紹介として、株式会社IHIの増田充弘氏から「IHIグループのアンモニアバリューチェーン構築に向けた取り組み」、東レ株式会社の柿山創氏から「多孔質炭素繊維を支持体とした革新CO2分離膜」について講演をいただきました。その後、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の尾﨑氏からグリーンイノベーション基金事業について、山口県産業労働部理事の大川氏から県内コンビナートにおけるカーボンニュートラルに向けた取り組みについて紹介をいただきました。最後に、山口大学の取り組みとして山口大学大学院創成科学研究科の荊木康臣教授、白石僚也准教授の研究紹介を行いました。

本シンポジウムをきっかけとして、グリーン社会の実現に向けた、企業、自治体、産学支援機関及び本学との連携が更に加速することが期待されます。

05 「冬のイルミネーションツリー」 点灯式を実施しました



令和5年12月4日(月)、吉田キャンパス正門付近にて「冬のイルミネーションツリー」の点灯式を行いました。この点灯式は、2015年から行っており、地域の方々と学生をつなぐ冬の風物詩となっています。

今年度は、「山口のクリスマスを盛り上げよう!」をテーマに、学生サークル「ブラッシュアップ・ヤマグチ」によるイルミネーション点灯が、おもしろプロジェクト企画の一環として実施されました。この企画は、山口商工会議所 日本のクリスマスは山口から実行委員会主催の「12月、山口市はクリスマス市になる」にも参画しています。

点灯式では、谷澤幸生学長扮するサンタ及び「ブラッシュアップ・ヤマグチ」次期代表 池田真一郎さんの挨拶の後、カウントダウンの合図でイルミネーションが点灯されると、会場から歓声が上がりました。その後、美しいイルミネーションをバックに、本学の管弦楽団、吹奏楽部によるパフォーマンスやサンタコスチュームをまとったヤマミィとの写真撮影が行われ、イベントを盛り上げました。このイルミネーションツリーは、12月25日(月)まで、毎日17:00~21:00の間、ライトアップされました。

06 「山口中央ライオンズクラブ」と「あどべん」が共育の丘で奉仕活動を行いました



「地元との共生」で大学の里山の環境緑化を推進する「『共育の丘』～奉仕の森 活動～」が、令和5年12月9日（土）に行われました。

この奉仕活動は、山口中央ライオンズクラブからの申し出により始まったもので、12回目となった今年は、「山口中央ライオンズクラブ」と「おごおりウィークエンドアドベンチャー（あどべん）」の子どもたちやスタッフ、山口農業高校の生徒、そして山大生5名が活動に加わって、総勢約100名が参加しました。

冬晴れに恵まれた当日、参加者とともに共育の丘に登った谷澤幸生学長から、大学の紹介と活動への感謝が述べられ、激励の言葉が送られました。そして、丘からの眺望を背景に記念撮影した後、作業がスタートしました。丘の上にソメイヨシノ5本を植樹する作業では、ライオンズクラブ、あどべん、山農高生、山大生が班に分かれ、運搬、植付、養生までを力を合わせて行いました。また、丘の頂上付近では、芝や雑草の刈り込み、収集等の清掃作業を行いました。お昼頃には作業が終了し、頂上は見違えるほど綺麗になりました。

07 山口大学医学部と山口東京理科大学薬学部が連携協定を締結しました



山口大学医学部と山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部は、チーム医療を実践できる優れた医療人を養成し、地域の健康・医療・福祉の発展に寄与することを目的として、両学部の教育資源を活用した「多職種連携教育プログラム」を令和6年度から共同実施することになりました。

令和5年12月25日（月）、本学医学部本館6階会議室において連携協定式が執り行われ、山口大学の篠田晃医学部長と、山陽小野田市立山口東京理科大学の武田健薬学部長が協定書への署名を行いました。

国立大学医学部と公立大学薬学部による多職種連携教育は全国で初の取り組みで、今後は医師、薬剤師、看護師、保健師、臨床検査技師を目指す2校の学生計360人が、両キャンパスを相互に利用しながら、全8回のプログラムの中でグループディスカッションや課題解決型の教育を通しチーム医療を学びます。

この協定が異なる大学及び学部・学科の学生と出会う貴重な機会となり、今後、多職種連携教育で学んだことを実践し、山口県の医療の高度化に貢献することが期待されます。

08 「YU学生アイデアコンテスト2023」最終審査会を開催しました



令和6年2月8日（木）、「YU学生アイデアコンテスト2023」の最終審査会を開催しました。

YU学生アイデアコンテストは、山口大学の学部生、大学院生を対象に、アイデアを持つ学生の考えを発表する機会・挑戦の場として、令和2年度から開催しており、今回は4回目の開催となります。YU学生アイデアコンテスト2023は令和5年11月に公募を開始し、令和6年1月中旬に1次審査（書面）が実施されました。

今回の最終審査会には、1次審査を通過した12組の学生・グループが参加し、短い持ち時間の中で、自身が考えたアイデアのプレゼンテーションを行いました。また、山口市のかめ福オンプレスを本会場として、学内の希望者にはオンライン配信を行いました。

参加者によるプレゼンテーションの後には、実現性や提供価値、提案に至る動機等について学外有識者を含めた審査員による審査が行われ、最優秀賞は、医学部 医学科5年 木村綾佑さんのチームが提案した「小野茶石けん“小野茶chacha”の紹介」が受賞し、最優秀賞を含む受賞者には、協賛の山口大学基金から賞金が贈られました。

09 第58回日本水環境学会年会において年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）を受賞しました



令和6年3月6日（水）～8日（金）に九州大学伊都キャンパスで開催された第58回日本水環境学会年会において、工学部の黒木咲良さん（社会建設工学科環境衛生工学研究室）と高橋律穂さん（循環環境工学科環境計画学研究室）が、年会学生ポスター賞（ライオン賞）を受賞しました。

日本水環境学会年会は、水環境分野の幅広い研究の発展と会員相互の情報交換を促進するために毎年春に開催されており、全国から約1,400名が参加し、600件以上の研究発表が行われ、活発な議論が行われています。参加者の投票によって20名の年会学生ポスター発表賞（ライオン賞）受賞者が決定され、黒木咲良さんによる「底質中へのアマモ漂着物の積極的な貯留が底質環境に及ぼす影響」、高橋律穂さんによる「中温メタン菌の45℃付近における耐熱域への適応」が受賞しました。

社会建設工学科と循環環境工学科は環境・衛生工学分野において講義や研究の連携を行っています。工学部では、これからもブルーカーボンや低炭素社会に貢献する研究を進めていきます。

財務データ
ガバナンス

Financial data
Governance



財務情報の見える化

～本学の損益計算書を企業会計に近づけると～



国立大学法人は利益の獲得を目的としていないことから、入金イコール収益ではなく一旦負債に計上し、出資者から負託された業務を実施すること（費用の発生）を収益化の条件とすることにより損益の均衡を図るなど、国立大学法人会計基準に基づき、企業会計とは異なる特有の会計処理を行っています。

損益計算書の経常費用は、教育研究等のサービスを実施するための本学の活動内容であり、経常収益の各項目は、その活動を賄った財源についての情報です。

このような国立大学法人会計基準に基づく損益計算書だけでは見えにくい情報もあることから、国立大学法人特有の会計処理を取り除き再計算し、企業会計の損益計算書に準じた形式で表示しました。

◆企業会計に近づけた損益計算書（令和４事業年度）

（単位: 百万円、単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。）

営業収益（教育研究等サービス実施収入）	**35,027**	
学生納付金	6,120	授業料収益、入学金収益、検定料収益
附属病院収益	26,648	
受託研究等収益	1,701	受託研究収益、共同研究収益、受託事業収益
その他営業収益	557	家畜治療収入、寄宿料収入、公開講座等収入
営業費用（教育研究等サービス実施原価及び一般管理費）	**53,184**	
人件費	24,957	給与、賞与、法定福利費、退職手当 等
消耗品等サービス原価	19,252	消耗品費、診療用材料費、業務委託費 等
減価償却費	5,169	
水道光熱費	1,365	電気料、水道料、ガス料 等
その他営業費用	1,110	奨学費、手数料、広告宣伝費 等
その他一般管理費	1,328	清掃費、警備費 等
営業利益（サービス実施利益）	**△ 18,157**	
営業外収益	**18,851**	
運営費交付金収益	11,957	
寄附金収益	981	
補助金等収益	4,320	施設費収益、補助金等収益
研究関連収入	1,207	科学研究費補助金（間接経費含む）
その他営業外収益	383	受取利息、財産貸付料収入、農場収入 等
営業外費用	**142**	
財務費用	83	支払利息、為替差損
雑損	58	
経常利益	**551**	
特別損益	**41**	
臨時利益	56	固定資産売却益、目的積立金取崩額 等
臨時損失	△15	固定資産除却損 等
当期純利益	**592**	

※以下のとおり国立大学法人特有の会計処理を取り除き、金額を補正しています。

区分	国立大学法人会計基準	補正（企業会計に近づけた損益計算書）
収益の計上基準	一旦負債に計上し、目的使用額を収益化	→ 寄附金、補助金等は入金時に収益計上
国からの現物出資資産等の減価償却	費用計上しない	→ 経常費用に計上
科学研究費補助金	預り金として処理（費用・収益に計上しない）	→ 経常費用・経常収益に計上
退職給付引当金	引当金を計上しない（国から財源措置される教職員に限る）	→ 引当金を計上
国立大学法人会計基準の改定（資産見返負債の会計処理の廃止）	約132億円の臨時利益を計上（令和４年度限り）※27ページ参照	→ 臨時利益に計上しない

◆今後の見える化について

今回は、令和４事業年度の損益計算書について、国立大学法人特有の会計処理を取り除き、企業会計原則という標準的なルールに基づく処理を行った結果、当期純利益は5.9億円となりました。しかしながら、その財務構造を見てみると、営業利益は181.5億円の赤字（損失）となっており、この損失を運営費交付金や補助金等の公的機関からの収益や、寄附金等の営業外収益によって賄っている状態です。本学の安定的な経営のため、外部資金やその他営業外の収益等の自己収入を更に増加させる必要があります。

山口大学の運営はステークホルダーのみなさまからの多様な資金により支えられています。本学の教育研究、社会貢献等の活動状況と財務状況へのご理解を深めていただくために、今後も、よりわかりやすい財務情報の発信に努めてまいります。

学生1人当たりの教育活動に要する経費

本学における教育活動に当たっては、授業料(535,800円)に加え、国からの運営費交付金や教育改革に係る補助金等を主な財源としています。昨今は、デジタル人材の育成に取り組むための補助金(2021年度)や地域活性化人材の育成に取り組むための補助金(2022年度～ 2027年度予定)等を獲得することにより、教育活動を充実させてきました。今後も地域における人材育成の拠点として、教育活動の充実を図ってまいります。

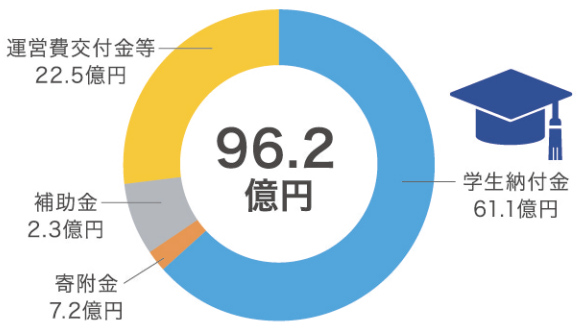
※デジタル人材の育成や、地域活性化人材の育成に関する取組については7~8ページをご参照ください。



学生1人当たりの教育活動に要する経費 96.0万円(千円未満切捨て)
教育活動に要する経費　約96.2億円／学生数10,019人(令和4年5月1日時点)

教育活動に充当した収益

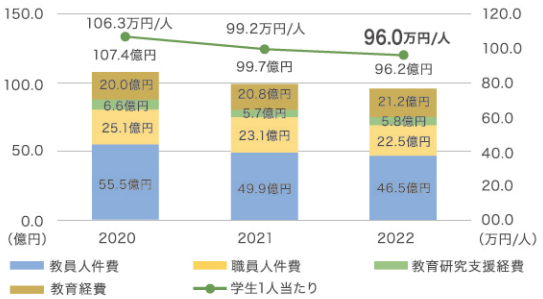
教育活動に要する財源の約65%は授業料等の学生納付金であり、その他に国からの運営費交付金や補助金、寄附金等で構成されています。



※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

教育活動に要する経費の推移

人件費の縮減のため総額は下がって見えますが、その他の支出は微増傾向にあります。経費の効率化を進めつつ、教育環境の維持に努めています。



※教育研究支援経費及び人件費は、研究に関する経費も含むため、教育経費と研究経費の比率(施設改修等の特殊要因は除く)を年間総額に乗じて算出しています。
※附属病院及び附属学校セグメントは除外しています。

教員1人当たりの研究活動に要する経費

本学における研究活動に当たっては、国から措置される運営費交付金や自己収入のほか、企業のみなさまをはじめ様々な方々からのご支援を受け推進しています。昨今は、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(2020年度～2025年度)や「コアファシリティ構築支援プログラム」(2020年度～2024年度)の採択による事業の推進を行い、研究活動の充実化・効率化を図ってきました。今後、さらに外部資金を獲得するなど、より一層努力し、本学の研究成果の還元に努めてまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

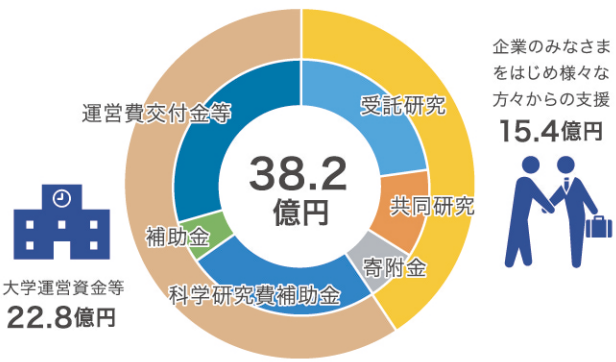
※「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に関する取組については13~14ページをご参照ください。



教員１人当たりの研究活動に要する経費 347.3万円(千円未満切捨て)
研究活動に要する経費　約38.2億円／教員数1,100人(年間平均人数)

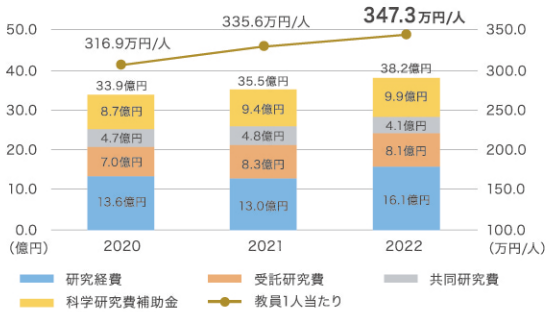
研究活動に充当した収益

研究活動に要する経費のうち、約40%は企業のみなさまをはじめ様々な方からのご支援により賄われています。



研究活動に要する経費の推移

教員一人当たりの研究活動に要する経費は増加傾向にあります。学外からの支援など、財源の多角化に取り組み、研究活動の充実に努めています。



※教員1人当たりの研究活動に要する経費は、各経費の合計額を常勤教員の年間平均人数で除して算出しています。(千円未満切り捨て)
※研究経費には人件費は含まれていません。

決算情報(令和4年度)

財務諸表等、詳細な決算情報は
こちらをご覧ください →

【令和4年度のポイント】

- 本学が国立大学法人化した平成16年度の決算額(負債431億円、純資産181億円)と比較すると、負債は37.6億円増の468億円(※1)、純資産は374億円増の555億円(※2)となっており、純資産の割合(自己資本比率)が増加しています。(平成16年度:29.6%→令和4年 度:54.2%)
- 借入金244億円(※3及び※4の合計)のうち、約96%は医学部附属病院の建物・医療用設備に関するものであり、附属病院収益より計画的に返済しています。(前年度比+37.2億円)
- 経常費用は前年度比15.4億円増の514億円(※5)です。病院情報管理システムの減価償却費の増加や附属病院の光熱水費の増加等により診療経費が増加しました。また定年退職者の増加に伴う退職給付費の増加等により人件費が増加しました。
- 経常収益は前年度比4.2億円増の515億円(※6)です。国立大学法人会計基準の改定に伴い、固定資産の購入額が当該年度中に収益として計上されることとなったため、運営費交付金収益、学生納付金収益、寄附金収益が増加した一方、資産見返負債戻入は計上されなくなりました。
- 国立大学法人では特定の財源で固定資産を取得した場合に、収入の一部を負債に計上し、減価償却に併せて収益化する国立大学法人特有の会計処理を行っていましたが、国立大学法人会計基準の改定により、この会計処理が廃止されました。これにより約132億円(※7)の臨時利益が発生しましたが、これは非資金取引によるものであり、現金が新たに発生したものではありません。

貸借対照表 B/S

(単位:百万円)

科目	2022年度	前年度比
資産の部	**102,401**	**9,500**
固定資産	82,307	6,942
土地	15,157	△ 23
建物・構築物	41,142	△ 1,255
機械備品等	9,338	2,950
図書	7,400	5
建設仮勘定	6,313	4,603
その他	142	△ 14
無形固定資産	270	△ 16
投資その他の資産	2,541	693
流動資産	20,094	2,558
現金・預金	12,740	2,948
未収金	6,814	△ 423
その他	540	34
負債の部(※1)	**46,884**	**△ 5,196**
固定負債	28,006	△ 9,802
長期繰延補助金等	1,433	△ 15,598
長期借入金 (※3)	23,181	3,431
長期未払金	2,581	2,002
その他	810	361
流動負債	18,878	4,605
寄附金債務	4,517	110
借入金 (※4)	1,236	292
未払金	10,693	3,106
その他	2,431	1,096
純資産の部(※2)	**55,516**	**14,697**
資本金	16,222	0
資本剰余金	9,186	1,359
利益剰余金	30,108	13,337
(うち当期未処分利益)	13,403	12,015

損益計算書 P/L

(単位:百万円)

科目	2022年度	前年度比
経常費用A(※5)	51,405	1,547
業務費	50,056	1,490
教育経費	2,398	93
研究経費	1,608	311
診療経費	19,081	717
教育研究支援経費	940	33
受託研究費等	1,608	△ 112
人件費	24,417	446
一般管理費	1,207	56
その他	142	0
経常収益B(※6)	51,560	442
運営費交付金収益	11,957	335
学生納付金収益	6,120	466
附属病院収益	26,648	125
受託研究等収益	1,701	△ 84
受託研究収益	870	3
共同研究収益	430	△ 63
受託事業収益	399	△ 23
寄附金収益	870	383
施設費収益	148	△ 53
補助金等収益	2,960	344
資産見返負債戻入	0	△ 1,021
その他	1,153	△ 55
経常利益 C=B-A	**155**	**△1,105**
臨時損失 D	15	0
臨時利益 E	13,208	13,093
(うち資産見返負債戻入)(※7)	(13,207)	(13,207)
当期純利益F=C-D+E	**13,348**	**11,988**
資本金	55	27
当期総利益 F+G	**13,403**	**12,015**

単位: 百万円、単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

附属病院以外の経常費用の詳細について

25ページの損益計算書のうち、経常費用及び経常収益の50%以上を医学部附属病院が占めています。大学の教育研究活動の状況をより分かりやすく表すため、附属病院セグメントを除いた経常費用の詳細をお示しします。

※科学研究費補助金に係る支出についても、実質的に大学の研究活動とみなし、経常費用に加えています。

総額192.2億円

教育活動費
9.3億円(前年比+0.8億円)

山口大学ではDX(デジタルトランスフォーメーション)人材の育成に力を入れています。令和4年度は文部科学省の「地域活性化人材育成事業(SPARC)」に採択され、その事業費等の増加により、教育活動費は0.8億円の増加となりました。
※デジタル人材の育成や、地域活性化人材の育成に関する取り組みについては7～8ページをご覧ください。

奨学費 7.1億円(前年比+0億円)

教育施設設備整備費 5.1億円(前年比▲0.1億円)

山口大学では返還を必要としない七村奨学金のほか、各種奨学金を利用することが可能です。
※七村奨学金については
31ページをご覧ください。
※その他の奨学金については
こちらをご覧ください。→

研究活動費
32.5億円(前年比+3.1億円)

科学研究費補助金の受入額の増加や、コロナ禍で抑制されていた旅費、研究用施設・設備の光熱水費が増加したことなどにより、研究活動費は3.1億円増加しました。今後も研究分野への投資を積極的に行ってまいります。
山口大学の研究プロジェクトは以下もご覧ください。
●地域レジリエンス研究センター → 9~10ページ
●細胞デザイン医科学研究所 → 15~18ページ

研究施設設備整備費 7.8億円(前年比▲0.2億円)

図書館運営費 3.4億円(前年比▲0.4億円)

その他共通経費
16.1億円(前年比+0億円)

光熱水費の高騰により1.0億円ほど費用が増加しましたが、その他の部分で経費の節減に努め、前年度と同水準となりました。

共通人件費
110.7億円(前年比▲5.2億円)

能動的な人員配置と、人件費の適正化を両立するため、教員の定員管理を厳格に行い、前年度と比べ5.2億円の減少となりました。
退職者の後任補充については、その必要性を一元的に精査する一方で、優秀な若手教員に早期に教授職を付与する制度(Young Advanced Professor)や、重点分野・新分野を中心に優秀な若手 研究者を早期に採用する制度(若手研究者雇用促進プロジェクト) を実施し、教育研究活動の充実を図っています。
また、若手・女性・外国人教員を積極的に採用し、多様性の確保に努めています。

※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

山口大学の内部統制体制について

山口大学では、業務方法書に規定した「内部統制に関する基本事項」に基づき、「内部統制システム」を運用しています。

○実施体制

・モニタリングの実施

山口大学では、各部局における自己点検（1次モニタリング）、総括担当部における各部局へのチェックリスト等での点検・ヒアリング（2次モニタリング）及び内部監査室が実施する内部監査（3次モニタリング）の3つのモニタリングを実施しています。

・モニタリング結果等の情報共有

業務方法書に記載するリスク管理等の内部統制に関する事項について、協議及び情報を共有するために、学長、理事、特命理事及び各キャンパスの事務部長（総務企画部長・医学部事務部長・工学部事務部長）で構成する内部統制会議を毎月開催しています。

モニタリングの結果は、内部統制会議に報告され、問題点があれば、要因の分析や改善策について協議を行い、その結果（検討状況・改善指示等）について部局長会議等を通じ学内全体で情報共有する体制を構築しています。

・監事監査の実施

山口大学では、組織業務に精通した常勤監事１名及び会計業務に精通した非常勤監事１名の２名体制で、本法人の業務及び会計について監事監査を行っています。

「国立大学法人山口大学監事監査規則」において、「監事は、役員会、経営協議会、教育研究評議会等の重要な会議に出席して意見を述べることができる」と規定しています。

前述の会議の他にも部局長会議や内部統制会議等に出席しており、これらの会議を通して、教育研究や社会貢献の状況、法人の内部統制機能等、法人の経営が適切かつ効果的・効率的に機能しているかについて、独立した立場で自由に意見を述べることで、本法人のガバナンスの一翼を担っています。

○「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況の確認

「国立大学法人ガバナンス・コード」は、国立大学が特性を踏まえた取り組みを実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するとともに、経営の透明性を高め、自ら強靭なガバナンス体制を構築していくための基本原則で、令和元年度に一般社団法人国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定したものです。

山口大学では、中期計画において、学長のリーダーシップのもとで、「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況を自主的、継続的に確認・点検することで強靭なガバナンス体制を構築することとしており、内部統制会議において適合状況を確認し、自己点検・改善を行っています。

なお、本学の「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況については、ホームページで公表しています。

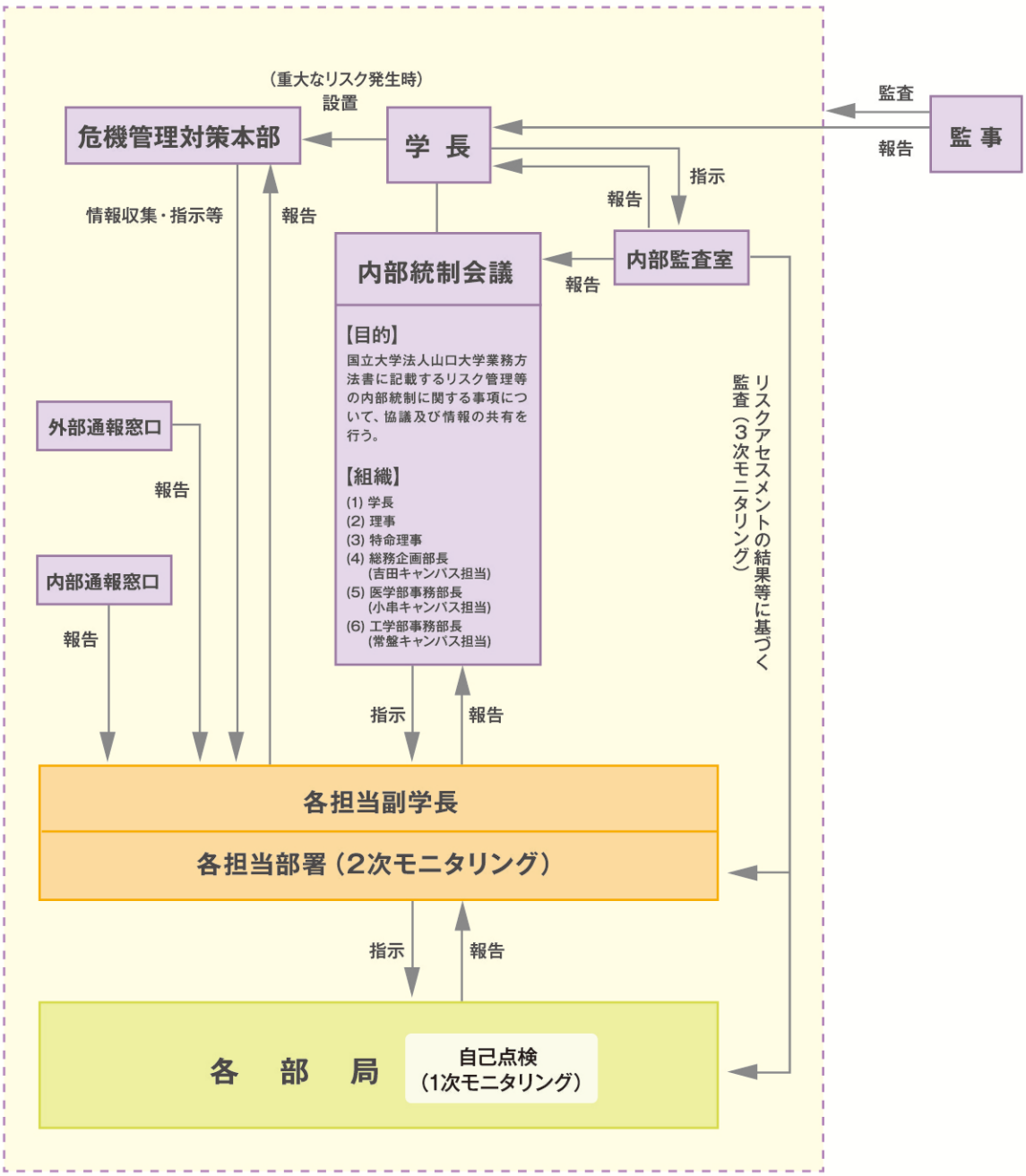
URL:https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/governance_code/

○リスク低減への取組

内部監査室では、平成２６年度から、リスクアプローチ手法を用いて「影響度」「発生頻度・可能性」の２面から４段階でのリスクアセスメントを毎年度末に実施し、その結果を翌年度の内部監査計画に反映しています。令和４年度末のリスクアセスメントにおいては、大学の諸活動の安全性・健全性を保つためのリスクが高いと判断するリスク項目を５８項目から６９項目に見直し、令和５年度の内部監査計画に反映しています。

以上のように、内部統制会議を中心としたＰＤＣＡサイクルや「国立大学ガバナンス・コード」への適合状況の確認等により、継続的に内部統制体制の実効性の確認と見直しを行い、法人業務の適正性の確保に努めています。

山口大学における
内部統制推進体制



山口大学基金
YAMAGUCHI UNIVERSITY FUND

新たな200年へ 未来の「長州ファイブ」が羽ばたきます

明日の日本を担う学生や若手研究者を支援し、社会の発展に貢献

山口大学は、法人化以降国からの運営費交付金が削減される中で、安定的な財務基盤を確立しつつ大学としての使命を果たすため財源の多元化を進めています。寄附もその一つとして位置付け、平成27年の創基200周年を機に、寄附活動をこれまでの周年事業募金から恒常的募金に切り替え、平成29年度に創設した「山口大学基金」により、多くの学生や研究者への支援を行っています。

これまで、卒業生、企業・団体、学生のご家族や地域の皆様、教職員等多くの皆様から、延べ2万件のご寄附をいただき、3,000名を超える学生・研究者に修学・研究支援を行って参りました。本学独自の給付型奨学金や、授業料支援、食料品支援など生活に困窮する学生への経済的支援とともに、学生のチャレンジ精神を応援する海外留学や自主的活動への支援を行っています。また、博士後期課程学生を含む若手研究者への研究支援も推進しています。様々な支援を通じて、如何に多くの皆様が山口大学を支えてくださっているかを実感し、あらためて感謝申し上げます。

本学の学生は、約4割が奨学金を受給し1割強の学生が自ら生活費を賄っています。5類移行後もコロナ禍の影響は残っており物価高騰の影響を受ける学生も多い中、山口大学は、「新たな日常」においても明日の日本を担う学生らが夢をあきらめることがないよう、また、若手研究者らが安心して研究に打ち込み、その成果により社会の発展に貢献できるよう、山口大学基金を更に充実させ、今後も継続して支援を行ってまいります。

支援実績（令和4年度）

支援人数・件数：770人・23件　支援額：約4,690万円

七村奨学金（山口大学独自の返還を要しない給付型奨学金）　：26人 1,582万円

○1人当たり 63万円(7万円×9月、4年又は6年間)

学部学生 26人（人文学部1、教育学部1、経済学部4、理学部3、医学部医学科5、医学部保健学科4、工学部4、農学部1、共同獣医学部2、国際総合科学部1）

○令和5年3月　四期生9人卒業（人文学部1、教育学部1、経済学部3、理学部2、工学部2）



私費外国人留学生への奨学金（給付型）　：12人　648万円

○1人当たり 54万円（4.5万円×12月、1年間）

大学院生 12人（人文科学研究科1、経済学研究科3、東アジア研究科1、医学系研究科（医）1、創成科学研究科（工）3、共同獣医学研究科1、技術経営研究科2）

経済的困窮学生に授業料を支援（返還不要）　：7人 179万円

○半期分授業料　上限 267,900円（修学年限期間中1回）

学部学生 7人：前期 4人（人文学部1、経済学部1、共同獣医学部2）　**後期 3人**（人文学部1、教育学部1、理学部1）

海外留学経費の一部を支援　：119人 1,043万円

○海外留学経費支援

学部学生 111人（人文学部1、教育学部3、経済学部11、医学部15、工学部・創成科学研究科(工)30、農学部・創成科学研究科(農)7、共同獣医学部7、国際総合科学部37）

○IELTS・TOEFL支援　**学部学生 8人**（人文学部1、経済学部1、医学部1、工学部1、国際総合科学部4）

大会等で優秀な成績を挙げた課外活動、団体への支援　：3件　30万円

○1団体10万円

吹奏楽部：第44回全日本アンサンブルコンテスト 金賞、第45回全日本アンサンブルコンテスト全国大会出場 他

将棋部：第104回中四国学生将棋大会 優勝、第50回全日本学生将棋十傑戦（学生王将戦）出場

水泳部：第52回中国四国学生選手権水泳競技大会　100m 背泳ぎ優勝
きららカップ 2022 50m バタフライ優勝、きららカップ 2022 50m 平泳ぎ優勝

その他学生支援事業　：580人・11件　439万円

○学生の自主的活動　3件（Yamaguchi Surgical Skill Team (YSST)、吹奏楽部、教育・学生支援機構）　計30万円

○学生の就職支援・教育環境の改善等　2件（教育・学生支援機構）　158万円

○PCR検査受検料支援　180人（教育学部、医学部、共同獣医学部）　90万円

○CO_2センサー全教室設置支援（教育・学生支援機構と連携し実施　109台　＊うち基金負担　91万円）

○フードパントリー in 山口大学
（NPO法人と共催し経済的困窮学生に食料品を支援：11月30日～12月2日　計400人　＊うち基金負担　51万円）
＊吉田キャンパス　250 人、小串キャンパス 50 人、常盤キャンパス 100 人



○YU学生アイデアコンテスト2022　5件　19万円
最優秀賞（部門賞から選考）：1件7万円　工学部
部門賞：1件5万円　ビジネスプラン部門：人文学部　アイデア部門：工学部
優秀賞：1件3万円　ビジネスプラン部門：国際総合科学部　アイデア部門：医学部医学科
審査員特別賞：1件1万円　経済学部

研究プロジェクト・国際交流・地域連携等事業への支援　：26人・9件　769万円

○若手研究者研究プロジェクト　1人当たり20万円　20人　計396万円
＊研究者 12 人：教育学部1、共同獣医学部 3、創成科学研究科（理）3、医学系研究科（医）2、創成科学研究科（工）1、創成科学研究科（農）1、大学研究推進機構 1
博士後期課程学生 8 人：医学系研究科（医）1、創成科学研究科（工）2、共同獣医学研究科 3、東アジア研究科1、連合農学研究科 1

○名誉教授研究プロジェクト　1人当たり20万円　6人　計114万円 ＊人文学部 1、理学部 2、工学部 1、農学部 2

○学術講演会等開催　1件当たり　国内：20万円　国際：40万円　6件　計141万円
＊共同獣医学部1、創成科学研究科（理）1、創成科学研究科（工）1、創成科学研究科（農）1、東アジア研究科1、大学研究推進機構 1

○日中学術交流等事業・留学生との交流に関する助成事業　2件　計108万円

○地域連携・地域貢献活動事業　1件当たり10万円　1件　計10万円 ＊医学系研究科（医）1

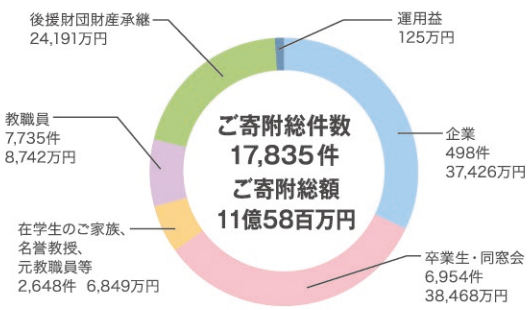
感謝の言葉

外国人留学生給付型奨学金　技術経営研究科 2年
奨学金のお陰で研究と勉強に集中し、調査研究も順調に進めることができました。今後は研究を完成させて、日本での就職を目指し、国際感覚を身に付けた研究者として、また社会人として社会に貢献したいと考えています。

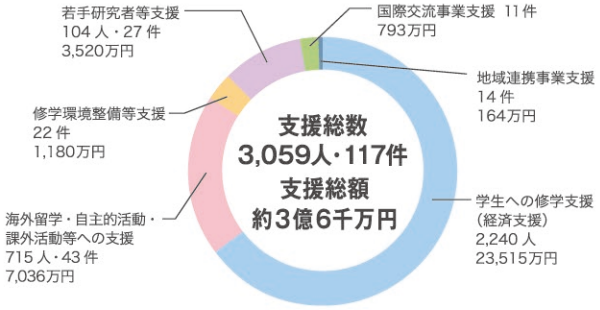
海外留学支援　医学部医学科 6年
臨床実習の一環として海外での実習は初の試みで、住居や航空券等全ての手配を自身で行う必要がありました。不安を抱えての出発でしたが、基金からのご支援は経済的に大変有り難く思うと同時に、自らの目標を支援していただけることがこれほど嬉しいものかと心から感謝しました。この度は有難うございました。

博士後期課程学生への研究プロジェクト支援　創成科学研究科（工）博士後期課程 1年
山口大学基金は、山口大学と密接な関係にある方々からのご支援により成り立っています。本基金で研究できたことに厚く御礼申し上げます。行っている研究をさらにブラッシュアップして、世界へ発信できる様に努力していく所存です。

山口大学基金へのご寄附総額
（令和4年度末現在）



山口大学基金による支援実績
（令和4年度末現在）





山口大学基金に関するお問合せ

山口大学基金事務局
Tel 083-933-5622　Fax 083-933-5624
kikin@yamaguchi-u.ac.jp

Your Health, Our Wish
–あなたのために未来へつなぐ医療–
地域医療の「安心」と「未来」を育てる病院



理念

一人ひとりの健康と安心の探求と実現

- 患者さんに寄り添い安全で良質な医療を提供する
- 個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る
- 持続可能な地域医療の実現に貢献する
- 豊かな人間性を持ち、多様な場で活躍できる医療人を育成する
- 世界に誇れる先端医療を探求しつづける

病院の理念と基本方針を刷新

令和5年5月、松永和人新病院長のもと、理念と基本方針を刷新しました。本院としては初の試みである、全職員の参加によるパブリックコメントでつくりあげました。

患者さん、職員・学生や若い医療従事者・未来・地域社会に対する、山口大学医学部附属病院や職員の使命・責任がこれらの基本方針に込められています。

Topics

令和6年能登半島地震被災地へDMATを派遣

山口県からの派遣要請を受け、医師2名、看護師2名、業務調整員1名（診療放射線技師）の本院DMATチームを派遣しました。令和6年1月12日（金）～17日（水）の期間、能登医療圏DMAT活動拠点本部（公立能登総合病院）を中心に現地での病院支援などの活動を行いました。加えて、災害派遣ナース５名、災害派遣登録薬剤師1名も活動に参加しました。



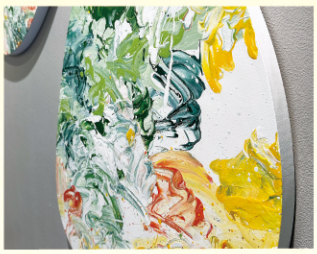
Topics

ホスピタルアートを設置

山口大学医学部附属病院は、令和5年2月にB棟（第1病棟）の改修が完了し、現在はC棟（外来棟）を中心に整備を進めています。

入院病棟や診療施設が整備されると共に、各所にはホスピタルアートが展示され、患者さんのための心安らぐ空間づくりが始まっています。





C棟2階廊下　作品名 ナツミカンの木







C棟1階クロスラウンジ柱周り
作品名 デイリー・コーズ［365＋＋］

再開発整備事業の詳細は…

山口大学　再開発　検索

http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp

Topics

診療科連携部門を新たに設置



本院では診療機能の強化に取り組んでおり、様々な分野のプロフェッショナルが綿密に連携しながら総合的な治療などを行うセンター化を進めています。

現在、「生殖医療センター」「血管内治療（IVR）・放射線診断治療センター」「こども医療センター」「低侵襲手術センター」「IBDセンター（炎症性腸疾患センター）」「高齢者がん治療センター」「臨床心理センター」の7センターを設置し、診療科の枠を超えた分野型連携の診療を行っています

「低侵襲手術センター」は、ロボット支援手術をはじめ、腹腔鏡・胸腔鏡下手術などの低侵襲手術の技術向上などを目的として設置されました。本院では、令和5年3月に2台目の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を新たに導入し、山口県内では初となる手術支援ロボット2台体制で手術を行っています。

Topics

サンクスカードを始めました

患者さんから職員へ、または職員同士で感謝の気持ちを直接伝えるほめる文化づくり、話しやすい雰囲気づくりを目指して、「サンクスカード」を始めました。たくさんのお褒めの声が届いています。



Topics

医学部公式Instagram開設

医学部や附属病院の最新情報などを発信しています。

▲フォローはこちらから

山口大学
データ集

Yamaguchi University
Data Sheet



山口大学の
気になる数字

卒業生・大学院学位 授与者数

日本全国、世界各国の幅広い分野で
活躍中

累計126,807人
令和5年3月31日現在



学生数

10,015人
令和5年5月1日現在

学部生8,515人、修士課程1,035人、
博士課程 390人、専門職学位課程75人

教職員数　4,004人　令和5年5月1日現在

特命理事1人、教員1,063人、事務職員416人、技術職員63人、
医療職員252人、看護職員896人、その他職員195人、
非常勤職員1,118人

学部・大学院

9学部
（人文、教育、経済、理、医、工、農、
共同獣医、国際総合科学）

8研究科
（人文科学、教育学、経済学、医学系、
創成科学、東アジア、技術経営、
共同獣医学）

起源

2015年に創基200周年を迎えました

長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂が前身

東京大学・東北大学に次いで日本で3番目に歴史のある大学

面積

土地
1,104,643㎡
令和5年5月1日現在

建物
建面積　142,105㎡
延面積　427,243㎡

総面積は東京ディズニーランド※の2倍以上!!

国際交流

協定数　36ヵ国・地域
171機関
令和5年5月1日現在

外国人留学生数　39ヵ国・428人
令和5年5月1日現在

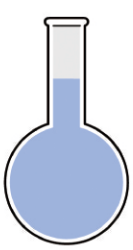
海外派遣学生数　175人
令和4年度

令和4年度から長期留学が本格的に再開し、外国人留学生数はコロナ前の状況に戻りました。海外派遣学生数も増加しつつあり、国際交流も活発になっています。

外国人教職員数　52人
令和5年5月1日現在

研究

科学研究費助成事業
採択数　504件
交付金額　約10.8億円
採択率　30.3%
令和5年10月31日現在



論文数　4,018件　令和2年~令和4年 累計

国内特許保有件数　482件　令和5年3月31日現在

※「東京ディズニーランド」は米国法人ディズニー・エンタプライゼズ・インクの登録商標です。

入学志願者・入学状況
（令和5年度）

入学者の都道府県別分布
(出身高校等所在地による)

入学者総数 1,976人

北海道・東北

北海道	9
青森県	0
岩手県	1
宮城県	1
秋田県	1
山形県	0
福島県	1
合計	13

中部

新潟県	3
富山県	5
石川県	6
福井県	2
山梨県	2
長野県	2
岐阜県	8
静岡県	26
愛知県	37
合計	91

中国

鳥取県	30
島根県	70
岡山県	95
広島県	316
合計	511

山口県
山口県 485

関東

茨城県	3
栃木県	3
群馬県	1
埼玉県	3
千葉県	2
東京都	14
神奈川県	7
合計	33



九州・沖縄

福岡県	276
佐賀県	31
長崎県	50
熊本県	30
大分県	60
宮崎県	39
鹿児島県	27
沖縄県	21
合計	534

四国

徳島県	17
香川県	24
愛媛県	45
高知県	11
合計	97

近畿

三重県	17
滋賀県	5
京都府	16
大阪府	42
兵庫県	98
奈良県	6
和歌山県	11
合計	195

その他
留学生、帰国生徒等 17

学部別入学定員・志願者数・合格者数・入学者数

学　部	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
人文学部	185	1,011	209	192
教育学部	180	662	197	192
経済学部	345	1,263	391	346
理学部	220	813	249	223
医学部	229	1,311	246	229
工学部	530	2,112	607	546
農学部	100	319	115	103
共同獣医学部	30	190	33	32
国際総合科学部	100	338	118	113
合　計	1,919	8,019	2,165	1,976

毎号155,000部！県内すべての小中高生へ

本学では、年に3回、情報誌「Academi-Q（アカデミック）」を作成しています。毎号155,000部を発行し、山口県内の教育委員会・学校等を通じて、すべての児童、生徒に配布しています。本誌の配布により最先端の研究や学問の面白さを児童・生徒の皆さんに継続的に伝えていくことで、知的好奇心の喚起や学習意欲の向上を図り、優れた人材の育成の一助になることを期待しています。

その他にも、大学ホームページ、大学公式X(旧Twitter)等にて本学の特色のある活動を幅広いステークホルダーに向けて発信しております。デジタル情報と紙媒体等のメディアミックスにより効果的な広報を積極的に展開し、本学の活動の成果がより広く地域に還元されることを目指します。





大学ホームページ
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/

大学公式X(旧Twitter)アカウント：@YamaguchiU_koho

情報誌「Academi-Q」：
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/academi-q/

卒業者・修了者の就職状況（令和4年度）

学部

産業別分類 ＼ 学部		人文	教育	経済	理学	医学	工学	農学	国際総合	全体
卒業者（人）		188	187	359	195	117	517	99	85	**1,747**
進学者・留学者等（人）		9	11	5	71	10	326	39	1	**472**
就職者（人）		159	165	315	109	107	168	53	79	**1,155**
就職者内訳（%）	建設業	5.7	0.6	4.8	3.7	0.0	20.2	3.8	7.6	**6.1**
	製造業	10.1	0.0	8.6	14.7	0.0	20.2	26.4	19.0	**10.6**
	情報通信業、運輸業、郵便業	14.5	2.4	13.3	19.3	0.0	14.3	5.7	7.6	**10.6**
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	17.0	0.6	12.7	8.3	0.0	1.8	11.3	21.5	**8.9**
	金融・保険業	7.5	1.2	16.5	1.8	0.0	1.2	1.9	7.6	**6.7**
	医療、福祉	5.0	3.0	1.6	4.6	85.1	0.0	0.0	5.1	**10.3**
	教育、学習支援業	10.1	80.7	1.6	21.0	0.0	0.6	5.7	2.5	**15.9**
	複合サービス事業、サービス業	16.9	4.2	16.8	13.8	0.9	17.9	11.3	11.4	**12.8**
	公務	11.9	5.5	17.4	11.0	14.0	19.6	26.4	13.9	**14.5**
	その他	1.3	1.8	6.7	1.8	0.0	4.2	7.5	3.8	**3.6**

大学院

産業別分類 ＼ 研究科		人文科学	教育学（修士）	教育学（専門職）	経済学	創成科学（博士前期）	医学系（博士前期）	技術経営	創成科学（博士後期）	医学系（博士後期）	東アジア	全体
修了者（人）		5	5	16	25	394	15	16	23	9	9	**517**
進学者・留学者等（人）		1	0	1	0	21	0	2	0	0	0	**25**
就職者（人）		3	5	15	18	352	15	13	21	9	8	**459**
就職者内訳（%）	建設業	0.0	0.0	6.7	0.0	10.5	0.0	7.7	14.3	0.0	0.0	**9.2**
	製造業	33.3	0.0	6.7	16.7	52.8	20.0	61.5	19.0	11.1	12.5	**45.3**
	情報通信業、運輸業、郵便業	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	**10.0**
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	0.0	0.0	0.0	5.6	0.6	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	**0.9**
	金融・保険業	0.0	0.0	0.0	5.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.4**
	医療、福祉	0.0	20.0	0.0	0.0	0.3	40.0	0.0	0.0	11.1	0.0	**2.0**
	教育、学習支援業	66.7	0.0	79.9	16.7	3.1	26.7	0.0	42.9	77.8	62.5	**11.5**
	複合サービス事業、サービス業	0.0	40.0	6.7	5.6	13.6	13.3	7.7	9.5	0.0	0.0	**12.4**
	公務	0.0	40.0	0.0	0.0	2.3	0.0	7.7	9.5	0.0	12.5	**3.1**
	その他	0.0	0.0	0.0	49.8	3.7	0.0	7.7	4.8	0.0	0.0	**5.2**

大学院（全体）

産業別分類		修士・博士前期	博士後期
修了者（人）		476	41
進学者・留学者等（人）		25	0
就職者（人）		421	38
就職者内訳（%）	建設業	9.3	7.9
	製造業	47.9	15.8
	情報通信業、運輸業、郵便業	10.7	2.6
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	1.0	0.0
	金融・保険業	0.5	0.0
	医療、福祉	1.9	2.6
	教育、学習支援業	7.6	55.3
	複合サービス事業、サービス業	13.0	5.3
	公務	2.6	7.9
	その他	5.5	2.6

- 医学部医学科、共同獣医学部は含まない。
- 医学系研究科に関しては、一貫性博士課程は含まない。
  共同獣医学研究科は含まない。
- 「進学者・留学者等」、「就職者」に留学生及び有職者を含む。

Web
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/

X
ID @YamaguchiU_koho

Facebook
山口大学（Yamaguchi University）

YouTube
山口大学広報室チャンネル

山口大学レポートに関するご意見等をお寄せください。 yu-info@yamaguchi-u.ac.jp

発行:山口大学総務企画部広報室　発行年月:2024年6月

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学